

2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

⑦インナーシール工法

1) 開口部 施工仕様一覧

	外観上の納まり	特徴	
開口部	端部カバー・見切縁 ＋ シーリング納め (現行 標準施工)	センターサイディングを開口四周の見切縁 などに差し込む 見切縁等とサッシの取り合い部は ハットジョイナー＋シーリング	→P51～58
	開口部 インナーシール工法 化粧(三角)シーリング納め (開口上部は設計上の隙間あり)	センターサイディングとサッシの取り合 い部を化粧(三角)シーリング(※)とす ることができる施工法	→P59～68

※化粧(三角)シーリング：センターサイディングとサッシの取り合い部を、意匠的にシーリングで納めます。
一般的に、三角シーリングはシーリング切れが生じやすくなります。シーリング切れが生じてインナー
シール工法では防水性能上問題ありませんが、化粧(三角)シーリング部の不具合に関しては対応しか
ねますので、美観上のメンテナンスなどは適宜行ってください。

2) 適用






- 建築物：新築 木造軸組工法／木造枠組壁工法
- 施工仕様：木脚縁施工(横張り／縦張り)

3) サッシの確認

※サッシの形状・寸法・位置などにより、インナーシール工法が適用できない場合があります。
事前に十分確認してください。

- 適応サッシ形状：外付けまたは半外付けサッシ

外周形状(シャッターボックス等も含めた形状)

				
○ 施工可	× 施工不可(例)			

- サッシ寸法：W2900mm以下
- サッシ釘打ちフィン寸法：およそ45mm以下
- サッシ外部枠形状：鋼板止水部材施工時のEPDM材の圧縮を阻害しないこと
鋼板止水部材を四周(角部含む)有効に施工できること

<施工不可の例>

サッシ(縦・横)枠の取り合いで片側の枠が1mmを越え突出しているもの、
サッシ枠上の留付ビスにより、鋼板止水部材の取り付けが大きく阻害されるもの など
※サッシ上部の場合、正面から鋼板止水部材のEPDM部が若干見えることがありますが、
サッシ枠の取り合いにより見え掛けが大きくなる場合があります。



- サッシの形状・寸法・位置などによりインナーシール工法が適用できない場合があります。
- 施工上、土台部・中間部・(軒部)に「(N)端部カバー、N・S見切縁18など」を使用しない
納まりにすると、化粧(三角)シーリング部が綺麗に仕上がります。
(N)端部カバー、N・S見切縁18を使用する場合(特に、縦張り時)、サッシ際に隙間が
発生するため、サイディング本体を切断する際はできるだけ実寸法を正確に測って納めてく
ださい。またこの場合、化粧(三角)シーリングの幅を広く取っていただくことになります。
- 防耐火認定を使用する場合は、中間水切上部に端部カバーまたはタテ用スターターが
必要です。